



おもい
おもい
おもい

2025.
3.8 [Sat.]
|
6.15 [Sun.]

荻原朔太郎記念・水と緑と詩のまち
前橋文学館



2025.
3.1 [Sat.]
|
5.25 [Sun.]

主催：前橋市
後援：前橋税務署・群馬県
協力：浅間酒造(株)・(合)大谷忠吉本店
古書てんとうふ・近藤酒造(株)・柴崎酒造(株)
土田酒造(株)・中山義秀記念文学館・聖酒造(株)
星野弘(星野家具製作)・(株)町田酒造店・柳澤酒造(株)
群馬県酒造協同組合・群馬県職業能力開発協会・群馬SAKE TSUGU

前橋文学館収蔵資料展

酒と詩人と人生と
ロマンティズムを飛翔



平常素面の意識では出来ないことが、所詮酒の力を借りて出来るところに、飲んだくれ共のロマンチックな飛翔がある。

萩原朔太郎の酒にまつわる詩篇は、浪漫主義のような酒や飲酒への賛美や耽美的な視点とは異なる。例えば、初期作品の「宿酔」では「二日酔い」がテーマとなっており、この頃の作品としては異彩を放っていた。また酒をテーマとしたものは、詩篇以上に短歌やエッセイ、アフォリズムと幅広い作品で見られ、当時の世相や哲学、宗教、西洋文化との比較など、様々な視点から論じられている。

本展では、これらの朔太郎作品を中心に親交のあった中原中也や草野心平など、様々な人物が語る朔太郎と酒のエピソードを取り上げる。さらに朔太郎の再婚相手・大谷美津子の兄であり、杜氏で詩人でもあった忠一郎と弟・正雄との交友についても触れる。

加えて2024(令和6)年12月、ユネスコ無形文化遺産に登録された日本の「伝統的造り」や、日本酒の造り方、地元群馬馬場の地酒、酒蔵などについても概説する。



- 1 「おち栗」第一号
1909(明治42)年5月 麗藻社 岡山の第六高等学校に在籍していた時の作品で「宿酔(ふつかよい)」という詩篇が掲載されている
- 2 「ソライロノハナ」復刻
初版1913(大正2)年 復刻版1985(昭和60)年10月 日本近代文学館 掲載された短歌には「酒」をテーマとしたものが多くある
- 3 萩原朔太郎自筆原稿「酔漢の屍体」
「月に吠える」に所収の「酒精中毒者の死」の草稿。当初のタイトルは「酔漢の屍体」だったことが窺える
- 4 「アサヒカメラ」第23巻第3号
1937(昭和12)年3月 東京朝日新聞 発行所 雑誌には無題の筆跡写真と、小料理屋で撮影された朔太郎の写真が複数掲載されている
- 5 大谷忠一郎「空色のポスト」
1938(昭和13)年6月 風文書院 朔太郎が装幀を手がけた詩集。大谷忠一郎は再婚した大谷美津子の長兄で、朔太郎に師事していた
- 6 萩原朔太郎自筆原稿「算沢・飲酒」
筑摩書房版の萩原朔太郎全集に未収録の作品。エッセイとして1925(大正14)年6月19日の「大阪朝日新聞」に掲載後、1926(大正15)年に朝日新聞社発行の「一日一文」に収録された

企画展 記念イベント

祝 オープニングイベント「鏡開き」

日本の「伝統的造り」のユネスコ無形文化遺産登録記念と展覧会のオープンを祝して、鏡開きを行います。群馬県の地酒をお楽しみください。なお、当日は観覧無料です。

- ・ 3月1日(土)14時
- ・ 会場:朔太郎橋(前橋文学館向かい)
- ・ 定員:先着30名(※試飲は20歳以上)
- ・ 参加:無料

申込開始日:2月8日(土)

ワークショップ「自分だけの枡を作って展示しよう!!」

世界に一つだけの枡作りに挑戦。さらにその作品を2Fの展覧会会場に展示できるスペシャルワークショップです。参加は小さな子どもから大人までOK。親子で作るもよし、または一人でじっくり作るのもよし。ぜひ、ご参加ください。

- ・ 4月13日(日)1回目:10時 2回目:14時
- ・ 会場:前橋文学館3Fホール
- ・ 講師:星野弘(星野家具製作)
- ・ 定員:先着各15名

申込開始日:3月8日(土)

協力:群馬県職業能力開発協会

作品朗読会「春だ! 地酒だ! 朗読だ!」

朔太郎の作品ほか、酒にまつわる作品の朗読会を行います。展覧会を見て、朗読会に耳を傾け、そして…。五感を潤す、風薫るひと時をお過ごしください。

- ・ 5月25日(日)14時
- ・ 会場:前橋文学館3Fホール
- ・ 出演:磯干彩香(あかぎ団)・天田えま・東野義典 萩原朔美(前橋文学館特別館長)・他
- ・ 定員:先着100名

申込開始日:3月8日(土)

ロマンチックな飛翔 一酒と詩人と人生とー
前橋文学館収蔵資料展

- ・ 会期:2025年3月1日(土)～5月25日(日)
- ・ 会場:2階企画展示室
- ・ 観覧料:一般500円(※高校生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名無料)
- ・ 観覧無料日:3月1日(土)(展覧会初日)
- ・ 担当学芸員によるギャラリーガイド
4月19日(土)15時～(予約不要)

展覧会案内サイト

おもいおもいのおもい展

- ・ 会期:2025年3月8日(土)～6月15日(日)
- ・ 会場:3階オープンギャラリー
- ・ 観覧料:無料

展覧会案内サイト

記念イベント・ワークショップのお申込みについて(2F・3F共通)

TEL.027-235-8011

イベントに関する注意点

- ・ 参加には、事前のご予約が必要です。
- ・ 当日有効の展示観覧券をご提示ください。なお、高校生以下は無料です。
- ・ 小学生は、16歳以上の保護者同伴にてご参加をお願いします。同伴にあたっては展示観覧券が必要です。
- ・ オープニングイベントに参加できる方は20歳以上です。荒天時は中止となる場合があります。
- ・ 飲酒については身分証の提示を求めることがありますので、ご持参をお願いいたします。

おもいのおもいのおもい展
 本展は、写真を通して人々が持つ「おもい」の共有と、時を経た変化を体感する空間だ。

写真を撮ることは、単に記録や瞬間を切り取るだけでなく、その背後にある感情や思い出、さらには時間の流れによる視点の変化を内在している。また過去の風景を通して、歴史の追体験をすることもできる。

1 映像作家の写真

映像作家であり、萩原朔太郎の孫である当館特別館長 萩原朔美。当館で2012(平成24)年に開催した特別企画展「朔太郎・朔美写真展」では、朔太郎が選んだ写真と同じ場所で撮影し、その変遷などを紹介した。今回は2025(令和7)年版として、新作を3点展示する。

1 「活動写真館通り」2012(平成24)年 2 「馬場川通り」2012(平成24)年

2 朔太郎の写真

詩人・萩原朔太郎は写真を趣味として、本市内外で多くの写真を撮影した。朔太郎自身、写真機を持つ理由として「自分の心の郷愁が写したいのだ」(「僕の写真機」「アサヒカメラ」1939(昭和14)年10月号)と語る。

3 「家族との散歩」 4 「郷愁」

3 家族

市内で撮影された家族写真(市民から公募)と共に、その「おもい」を紹介。

家族写真 1955(昭和30)年代撮影

家族写真 1955(昭和30)年代撮影

4 懐古前橋

かつての街に宿る記憶をたどり、そこで暮らした人々の「おもい」に触れる。

阿部勇一 1966(昭和41)年 前橋市生まれ「飛び石を渡る人」1985(昭和60)年1月 前橋公園(現 楽歩堂前橋公園) さちの池にて撮影

庭野剛治 1974(昭和49)年 前橋市生まれ「上毛倉庫街若宮(旧佐久間)営業所」2002(平成14)年3月14日 前橋市若宮町一丁目

上州文化ラボ 「暑中見舞いとして配られていた商店の団扇」昭和20～30年代

ワークショップ ほくらのおもいをうつしたそう
 かもくめくめみる・ステレオグラム

美術家 石原康臣氏を講師に迎え、美術家の視点からの写真撮影時の解説と共に、参加者自身で実際にステレオ写真を撮影します。さらに、その写真をステレオスコープで覗き、ステレオ写真の世界を体験します。

- ・ 日時 3月16日(日)10時～、14時～
- ・ 会場 前橋文学館3Fホール
- ・ 対象 先着各10名
- ・ 申込 2月8日(土)午前9時より 前橋文学館へ

講師 石原康臣(いしはら やすおみ)
 1976年 群馬県生まれ。現代美術家として、主に映像を使用したインスタレーションや写真作品を制作する。近年のテーマは「彼岸」「場の力」。日本の神話や祭り、土着的文化をモチーフに、写真や映像を使用したインスタレーションなどで「向こう側(常世)」を現代化する作品制作を行う

◎アクセス◎

- ◆ 電 車: JR前橋駅から徒歩約15分/タクシーで約10分 上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分
- ◆ バ ス: JR前橋駅北口バスのりば
 ●3番のりばから「中央前橋駅」行き(シャトルバス)「中央前橋駅」下車 徒歩約5分
 ●6番のりばから「荻窪公園・嶺公園」行き「城東町二丁目バス停」下車徒歩約5分
- ◆ 自動車: 関越自動車道 前橋ICから車で約15分

※広瀬川サンワパーキングをご利用の場合、駐車券に割引処理をいたします。

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち
前橋文学館
 〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10
 TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512
 https://www.maebashibungakukan.jp

Design studio vision Tatsushi Ishiro

※上記写真1～3のタイトルは「萩原朔太郎撮影写真集 完全版」(野口武久編 2009(平成21)年1月 みやま文庫)による